

## 令和5年度学校運営連絡協議会実施報告

## 1 組織

- (1) 都立若葉総合高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長 主幹教諭(教育情報部)=事務局長、教務部副主任 計3名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭（進路指導担当）、主幹教諭（教育情報部担当） 計7名
- (4) 協議委員の構成
- 地域学識経験者2名・・・和光大学副学長（評価委員）、桜美林大学入学選抜担当
  - 地域教育委員会関係者1名・・・稲城市教育委員会教育指導担当部長
  - 地域中学校関係者1名・・・稲城市立稲城第二中学校長
  - 地域自治会代表1名・・・稲城市坂浜自治会会長
  - 地域機関・・・・・・・・・・多摩中央警察署生活安全課課長代理
  - 地域地区委員1名・・・・・・・・稲城市青少年育成平尾地区委員会委員（評価委員）
  - 保護者代表1名・・・・・・・・PTA会長
  - 同窓生代表1名・・・・・・・・同窓会長
- 計9名

## 2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
- 第1回 令和5年6月29日（木）内部委員7名、協議委員8名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明、意見交換
- 第2回 令和5年11月24日（金）内部委員7名、協議委員4名  
授業公開、これまでの教育活動に関する報告  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- 第3回 令和6年2月16日（金）内部委員7名、協議委員4名  
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議  
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 令和5年11月24日（金）内部委員8名、協議委員1名  
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察  
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
- 第3回 令和6年2月16日（金）内部委員7名、協議委員2名  
アンケート集計結果の分析・考察、  
今年度学校の取組に対する評価と整理

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

#### (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・ 1 2 月	全校生徒	対象： 6 5 6 人	回収： 6 0 6 人	回収率： 9 2 %
・ 1 2 月	保護者全員	対象： 6 5 6 人	回収： 4 5 4 人	回収率： 7 1 %
・ 1 2 月	地域・住民	対象： 2 0 人	回収： 3 0 人	回収率： 8 5 %
・ 1 2 月	教職員	対象： 4 4 人	回収： 4 4 人	回収率： 1 0 0 %

#### (3) 主な評価項目

学校満足度、学習指導、キャリア教育、生徒指導、保健管理、安全管理、教育環境、組織運営、保護者・地域との連携、ライフワークバランス

#### (4) 評価結果の概要

学校評価アンケートの回収率が増加に転じた。今年度からアンケートを電子化したため、生徒は一人1台端末を活用したことに加えて、QRコードを駆使したことにより地域のアンケートも拡大した。しかしながら地域住民の分母の範囲の把握ができず、拡大した地域住民の分母を把握は今後も難しいと思われる。

#### (5) 評価結果の分析・考察

生徒の学校満足度は、1年次で83%、2年次で85%、3年次で91%であり、総合計で86%であった。保護者の90%であることから、保護者と生徒との乖離は縮小した。

保護者から、教育目標について84%の理解が得られており、昨年度よりわずかに減少傾向を示した。その原因を明らかにすることが課題である。また教員は82%と大幅上昇をみせた。教員に対して継続的な学校の特色に応じた教育活動を浸透させる取組の成果が出たところである。次年度以降も生徒や保護者の期待に応えられる教育活動を継続的に行っていく。

設置されている選択科目について、各年次とも90%以上が肯定的なことは、生徒の興味関心に応じて選択している結果であり、総合学科の系列を意識して入学してきた生徒のニーズに応えられていると考えられる。授業については、丁寧な説明であるなど指導への感謝が述べられている反面、教員の授業の進め方、授業が分かりにくい、対応の仕方等に不満の声もあることは受け止め、補習等工夫することが必要である。生徒の授業満足度は80%、保護者は78%であり、保護者がわずかながら減少したが、概ね期待に応えられ、生徒の進路希望や興味関心と一致しているものと考えられる。学習への取組の肯定度合が、生徒の88%、保護者81%に対し、教員50%と受け止め方の差が大きい状況であることがわかり、自分のことを客観視できるような指導をする必要がある。

コロナ明けで教育活動の制約が解除されていった中、工夫して体育祭、文化祭を実施した結果、肯定的な度合いが90%以上と大幅に増加した。生徒にとって、特別活動は学校生活を充実させるものであるため、次年度も継続して活性化していく。

部活動についても、活動の自粛や制限が解除された中実施され、生徒の満足度は84%と増加した。保護者についても、肯定的な意見が増加した。

「産業社会と人間」「マイプロジェクト」を含めたキャリア教育について、生徒、保護者とも肯定的な評価を得た。地域からの評価も一定の水準を維持しており、キャリア教育の成果が一定程度評価されたものとする。

生活指導において、90%超の生徒がルールを守っていると思っているが、ルールが適切と評価している保護者は77%と減少した。また、地域からも一定の評価をいただいた反面、認知度が低く、わからな

いとう回答が多かった。生活指導の取組みが全体でなされていると判断している教職員は 52%と、協働精神が課題であると考えられる。

教育相談について、「教職員に相談できると思う」生徒、保護者の肯定的な評価は昨年度とほぼ同じであるが、必要としている生徒が、より一層相談しやすいような体制を維持して行く必要がある。

いじめや体罰防止については、生徒、保護者と教員ともに高水準である。アンケート記載内容の聞き取り、生徒の状況把握と当事者の気持ちに寄り添うことに努め、安心して安全な学校生活が過ごせるよう、継続的に取り組む。

「積極的に情報発信が行われている」と考える保護者は 78%と若干の減少であり、教員の割合も 91%まで上昇した。教員が積極的に情報発信したが保護者に届いていないことが要因と考えることができる。地域の評価ではわからないという回答最も多いことは、アンケートを依頼した地域に関係があると考えられる。今後も HP 掲載、スマスク端末、classi 等の活用による情報を継続していく。今年度は、稲城市防災訓練への生徒派遣も復活したが、地域の保育園での保育実習や、近隣小学校への生徒制作の絵本の貸出ができなかったため、来年度実施していく。

ワークライフバランスについては、生徒には馴染みがない項目で、教職員には否定的な意見が散見した、これからも継続して取り組んでいく。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・近隣の小中学校、地域（自治体、消防、警察）が、本校の教育活動について関心があり協力的である。
- ・生徒の主体的な活動が学校を変えることにつながる。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校との連携を望んでいるので、地域のニーズに応じていく。
- ・地域の人材活用を一層推進するとともに地域のイベントにも参加していく。
- ・学校の施設の改善。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

##### (1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得ること。
- ・生活指導については、保護者との連携を強化し、節度ある行動を期待すること。
- ・学期ごとに校内研修会を実施し、教員の研鑽を図ること。

##### (2) 学習指導

- ・総合学科の特色あるカリキュラムの充実と基礎基本の定着を図ること。
- ・教員の授業工夫に対する否定的な意見については、授業改善が進むようにする必要があること。

##### (3) 特別活動

・部活動は、他校と比較すると活発とは言い難いので、一層の活性化を図り、生徒、保護者の満足度を高められるよう工夫すること。

##### (4) 生活指導

- ・登下校中のマナーについて問題ないと評価されているが継続して指導していくこと。
- ・挨拶指導の充実を図ること。

##### (5) 進路指導

・生徒が将来を見据えた中で、「産業社会と人間」「マイプロ」の系統的な計画でキャリア教育の成果がでていくと判断すること。

(6) 健康・安全

- ・教育相談の評価はおおむね良好であるが、相談しやすい環境をより一層整備していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
5	1				1	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

実績なし

8 その他

- ・評価精度の向上のため、HPやスマホ端末を活用した情報発信、学校公開の機会を増やしていく。